

栃木県埋蔵文化財センターだより

発行 平成19年6月1日
栃木県教育委員会
宇都宮市鳩田1-1-20
TEL 028-623-3425
編集 (財)とちぎ生涯学習文化財団
埋蔵文化財センター
下野市紫474
TEL 0285-44-8441
FAX 0285-44-8445
URL <http://www.maibun.or.jp>

2007
6月
やま
か
い
ど
う



CONTENTS

・巡回展「栃木の遺跡」から
佐野城跡 宮西遺跡 島田遺跡
寺平遺跡 駒形6号墳周辺遺跡

・栃木県の平成18年度発掘調査動向
・平成18年度に埋蔵文化財センターが行った発掘調査から
古館・三反田遺跡 唐沢山城跡
・栃木県の平成18年度発掘調査一覧
・埋蔵文化財センター普及事業の紹介

巡回展「栃木の遺跡」から

佐野城跡 (佐野市)



市道拡幅部分の発掘調査 青磁不遊環花生は中央部の溝より出土しました。

青磁不遊環花生とその出土状況

佐野城は、1602年に築城が始まり、1614年に佐野氏改易となるまでの短命な城でした。この城は、佐野の市街地中心部に位置し、標高約56mの独立丘陵上に連郭式の主郭が南北に連なっています。主郭部は、南から三の丸、二の丸、本丸、北出丸と続く東西110m・南北305mの細長い範囲で、昭和36年に市の史跡及び名勝に指定され、現在は公園として利用されています。主郭の周囲には、かつて内堀が廻らされていました。外堀は、それらの周囲をさらに広く取り囲んでおり、一部では近年までその名残をうかがうことができました。内堀と外堀の間は宅地化が進み、現在、当時の面影はほとんど残っていません。

佐野城跡の調査は、公園整備並びに周辺の道路改良工事等に伴い、昭和63年から平成16年度までに延べ17次にわたり実施されてきました。調査の結果、主郭部分を中心に、石垣や石畳、礎石列をはじめとした貴重な遺構やさまざまな遺物が出土し、佐野城に関する新知見を含めて大きな成果をあげることができました。

青磁不遊環花生は、佐野駅北側の市道拡幅工事に先立つ第17次調査の際、東西に伸びる幅1mほどの溝跡から出土したものです。陶磁器類は、破片の状態而出土するのが普通ですが、本出土品は、大変幸運なことに無傷の状態で見つけられました。発掘調査した場所は、佐野城跡の内堀と外堀の間にあたります。市道の拡幅部分ということもあり、発掘は大変狭い範囲に限られましたが、丁寧な調査を行うことによってこのような成果を得ることができました。14世紀前半頃に作られた中国元時代の龍泉窯系青磁と考えられます。

(佐野市教育委員会)

宮西遺跡 (佐野市)

宮西遺跡は、関東ローム層に広く覆われた市域南部の洪積世台地縁辺部に立地しています。遺跡が立地する台地の東西両側には開析谷が発達しており、台地上は、広い範囲に埋蔵文化財の包蔵地が確認されています。宮西遺跡の北東には、佐野新都市開発整備事業に先立って発掘され、さまざまな発見の舞台ともなった旧越名沼周辺の遺跡群を望むことができます。

宮西遺跡の調査は、道路改良工事に先立つもので、平成16年から17年にかけて幅6mの範囲を南北に細長く実施しました。調査範囲は、遺跡中心部の浅田神社より東側の台地斜面にあたる1,061㎡です。調査により、古墳時代から平安時代にかけての住居跡が28軒検出されました。今回、台地東部の傾斜地が主な調査範囲でありながらも多数の住居跡が検出されたことから、宮西遺跡全体は、大規模な集落跡と考えられます。

今回の調査で注目されるものとして、16年度では、3個の甕が住居跡のカマドに据え付けられた状態で検出されました。焚口側から見た場合、前に横並びで小型の甕が2個、その背後中央に長胴甕が1個据え付けられており、上から見ると三角形を呈しています。また、17年度調査では、やはりカマドからその構築材に用いられた「土師質土管」が4点セットで出土しました。長胴甕が構築材に用いられることはよくあることですが、わざわざあつらえることはあまり例がありません。栃木県内では、このようなまとまったかたちでの土製構築材出土は初めてです。

(佐野市教育委員会)



第19号住居跡のカマドの調査状況
あつらえたカマドの構築材がセットで出ました。

島田遺跡 (上三川町)

島田遺跡は鬼怒川の西側、日産自動車栃木工場の南側に広がる台地上に位置する遺跡です。土地区画整理事業に伴い、昭和61年から平成4年までの7年間にわたり、約17,000㎡の発掘調査を実施しました。現在は平成17年度より整理作業を実施し、発掘調査報告書の作成にあたっています。

発掘調査は、区画整理事業地内の道路部分のみであったにも関わらず、旧石器時代、縄文時代中期、古墳時代～平安時代の遺構遺物が、数多く発見されました。

旧石器時代については、2箇所の後期旧石器時代の石器集中区から、黒曜石などの石材で作られた多くの石器が出土しました。縄文時代中期の遺構は、竪穴住居跡22軒、袋状土坑を含む土坑268基、溝1条が確認され、数多くの縄文土器、石器、耳飾などの石製品、土製品が出土しました。古墳時代から平安時代に至るものとしては、竪穴住居跡101軒、掘立柱建物跡11棟、土坑179基、溝11条が確認され、土師器、須恵器、石製品、鉄製品が出土しました。中でも県内で出土例が少ない「和同開珎」が出土したことは特筆されます。

本遺跡の発掘調査は、先にも記述したとおり、限られた範囲での調査にも関わらず、これだけ多くの成果をあげていることから、非常に大規模な集落であったと考えられます。特に、縄文時代中期に関しては、上三川町内はもとより近隣において、これだけの規模の集落が確認されていないことから、拠点的な集落であると考えられます。

(上三川町教育委員会)



旧石器時代の石器出土状況
多数の土山は石器の出土位置を示しています。

寺平遺跡 (市貝町)

寺平遺跡は、小貝川に面した台地上にあります。旧石器時代から平安時代にかけての大規模な遺跡で、平成15年～16年にかけて発掘調査が行われました。今回は、旧石器時代について紹介します。

旧石器は、台地の先端部の1区と中央部の2区から出土しました。写真①は、1区から出土した石器です。上段はナイフ形石器と呼ばれるもので、ものを切ったり、ヤリ先に使用されたものと考えられています。2・3段目は円形搔器と呼ばれ、主に皮なめしに使用された石器です。これらは、約2万4千年前のハードロームという地層から出土しており、高原山産の黒曜石を用いているのが特徴です。

写真②は、2区の石器です。ヤリ先に使用された大小の尖頭器を主体とする石器群で、製品・未製品合わせて50点以上が出土しています。これらは、約1万6千年前のソフトローム層から出土しており、地元産の珪質頁岩やチャートなどを用いています。両者とも、県内では数少ない良好な資料であることから、今後の活用に向けて報告書の刊行が期待されます。

(市貝町教育委員会)



写真① 1区出土のナイフ形石器や搔器



写真② 2区出土の槍先形尖頭器とナイフ形石器

駒形6号墳周辺遺跡 (那珂川町)

駒形6号墳周辺遺跡は、那珂川の支流権津川に南面する台地上、国指定史跡駒形大塚古墳の西側に位置します。付近に特別養護老人ホーム建設が計画されたため、発掘調査が実施されました。

調査の結果、平安時代の竪穴住居跡3軒と時期不明の溝1条、土坑1基が確認されました。調査を実施したのはこのうちの平安時代の竪穴住居跡1軒を含む100㎡です。調査された竪穴住居跡からは土師器杯・甕、刀子、釘、墨書土器等が出土し、これらは9世紀半ばのものと考えられます。

墨書土器のなかには「南曹司」「×法カ南×」と判読できる墨書土器が出土し、ほかに判読できない墨書土器が10数点出土しています。判読できた2点の墨書土器は、文字の特徴から同一人物によって書かれたものであるといえます。また、「曹司」は役所などの庁舎・施設・部屋などを意味することから「南曹司」の墨書土器の出土は、遺跡の北約3kmに所在する那須官衙の関連施設であるなど密接な関係の集落であったことが推測できます。

(那珂川町教育委員会)



竪穴住居跡全景 (西から)



墨書土器「南曹司」

巡回展 栃木の遺跡

-最近の発掘調査の成果から-

栃木県では、毎年多くの発掘調査が実施されています。それらを、出来るだけ早い時期に、より多くの方にご覧いただくため、近年調査された遺跡とそこから出土した資料等を、県南・中央・県北の県立施設3館で巡回して紹介しています。ぜひご来場いただいて、文化財を身近に感じ、郷土の祖先の暮らしを振り返ってみてください。

旧石器時代

① ②

約12,000年前

縄文時代

③

④

主な展示資料

旧石器時代

① 寺平遺跡(市貝町)

大型の石刃を使用したナイフ形石器や、槍の先に装着した尖頭器が多数出土。

② 島田遺跡(上三川町)

長野産黒曜石を用いて製作された東内野型尖頭器は、おそらく日本最大。

縄文時代

③ 桧の木遺跡(茂木町)

縄文時代中頃の大集落。土器や石器、当時身につけていたペンダントやイヤリングなど多数展示。

④ 仲内遺跡(日光市)

東北地方より運ばれた珪質頁岩使用の石器と、その素材を小さな穴に埋納。

古墳～平安時代

⑤ 吾妻遺跡C地点(壬生町)

栃木県における古墳時代はじめ頃の土器が出土。当時の鉄製の鍬や鉈(ヤリガンナ)は極めて貴重。

⑥ 新宿古墳(足利市)

遺体を納めた石室の中から、勾玉・管玉・白玉を繋いだ首飾りが出土。

⑦ 田島持舟遺跡(足利市)

県内3例目となる土製六鈴鏡が出土。

⑧ 菅田古墳群(足利市)

平成17年度から10基の古墳を調査。石室内より出土した鉄刀、瑪瑙製勾玉、水晶製切子玉、碧玉製管玉などを展示。

⑨ 四十八塚古墳群(佐野市)

四十八の名前が示すとおり、多数の古墳を築造。埋葬された人への供え物として使用された甕(ハソウ)と提瓶(サゲベ)を展示。

⑩ 宮西遺跡(佐野市)

古墳時代から平安時代までの竪穴住居跡が28軒出土。住居に備えたカマド内から多数の土器が出土。

⑪ 古館・三反田遺跡(那珂川町)

古墳時代の終わりから平安時代にかけての竪穴住居跡が20軒出土。各時代毎の土器を年代別に展示。

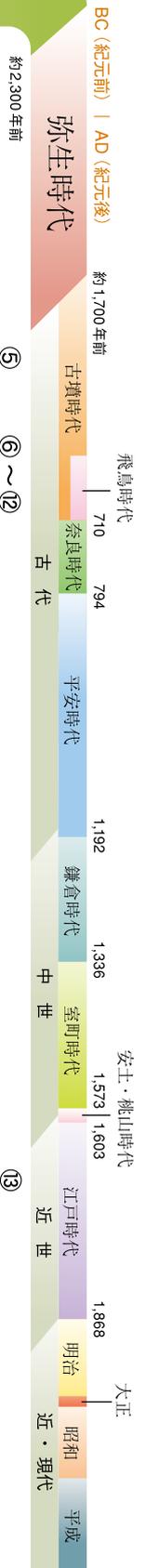
⑫ 岡ノ内遺跡(那須烏山市)

古墳時代の終わりから平安時代の竪穴住居跡から出土した土器を展示。特に、平安時代のものは、ススを吸着させた真っ黒な土器が特徴。

中世～近世

⑬ 佐野城跡(佐野市)

今から約700年前、中国の龍泉窯付近で焼かれた「青磁不遊環花生」が、奇跡的に無傷で出土。まちがいなく一見の価値あり。



開催館のご案内

栃木県立しもつけ風土記の丘資料館

平成19年4月21日(日)～6月10日(日)
下野市国分寺 993 TEL.0285-44-5049

栃木県立博物館

平成19年7月21日(土)～9月9日(日)
宇都宮市睦町2-2 TEL.028-634-1311
◎展示解説
日 時 8月5日(日) 14:30～
定 員 20名

栃木県立なす風土記の丘資料館

平成20年2月2日(土)～3月16日(日)
展示会場は小川館になります
那珂川町小川3,789 TEL.0287-96-3366
◎オープニングイベント
日 時 2月2日(土) 10:00～
会 場 小川館
※展示解説は随時行っております
◎遺跡発表会・風土記の丘成果発表会
日 時 3月2日(日) 10:00～
定 員 60名 参加費無料(要予約)

利用案内(3館共通)

開館時間 9:30～17:00 入館は16:30まで
休館日 月曜日(祝日・休日を除く)
祝日・振替休日の翌日

遺跡報告会のお知らせ

栃木県埋蔵文化財センター 平成18年度発掘調査報告会

日 時 平成19年6月2日(土)
10:00～15:00
会 場 栃木県埋蔵文化財センター研修室
定 員 180名 参加費無料(要予約)
連絡先 TEL 0285-44-8441

■ 栃木県の平成18年度発掘調査動向

平成18年度の栃木県内の発掘調査動向として注目されるのは、市町の発掘調査件数が17年度に比して若干増加し62件を数えたことです。一方、国及び県等から委託されて当センターが実施した調査件数は、わずかであるが減少し19件でした。

市町では、国指定史跡の整備のための発掘調査として樺崎寺跡(足利市)、小山氏城跡祇園城跡(小山市)、上神主・茂原官衙遺跡(宇都宮市・上三川町)下野薬師寺跡・下野国分寺跡(下野市)などがあります。下野国分寺跡では調査と並行し、七重塔の基壇と園路の一部が整備されました。また、宇都宮城跡は都市公園の一環として発掘調査の成果や古写真、絵図面等の資料から復元整備が図られ、年度末には開園されました。将来の国指定史跡として保存を図るための、高原山黒曜石原産地遺跡群剣ヶ峯地区(矢板市)の調査は、黒曜石の集積や流通、石器の制作の可能性が指摘されました。その他、県内を通過する東山道駅路跡の調査が東山道跡(宇都宮市)、新道平遺跡(那須烏山市)で実施され、また、足利氏居館跡及び鏝阿寺十二坊跡(足利市)をはじめとして、旧石器時代から中世・近世にいたる各時代の発掘調査が実施され多大な成果が得られており、その公表がまたれるところです。

国及び県等から委託されて当センターが実施した発掘調査は、北関東自動車道・県営圃場整備・湯西川ダム・県道改築などに伴うものです。北関東自動車道に伴う発掘調査は、県内通過路線内では県境の二宮～宇都宮・上三川インター間では下陰遺跡をもって完了し、調査は佐野市～足利市の県境間を重点的に実施しました。

佐野市内では、唐沢山城跡で、山の上に向かって延びる長さ60m・上幅10～20m・下幅1～2mの堅堀と、この堀の土を北側に盛り上げて構築された土塁が確認され、その結果、土塁の頂部から堅堀の底までの深さは6～7mあることが判明しました。県内で堅堀が調査されたのは今回が初めてです。また、四十八塚古墳群では、6世紀後半から7世紀代の17基の古墳を検出。また、中世の溝や土坑、墓穴と考えられる土坑、建物跡が検出されました。

足利市内では、丘陵尾根上に形成された菅田古墳群で、概ね6～7世紀代の10基の古墳が調査されました。外護列石を持つものと持たないもの、横穴式石室、堅穴系の埋葬施設を持つもの、箱式石棺など埋葬施設にちがいがみられるものが存在しました。この丘陵が西に延びる低丘陵上に田島持舟遺跡が所在します。この遺跡からは、古墳時代後期の古墳と集落跡が確認されており、菅田古墳群と田島持舟遺跡の関係について、今後の研究成果に期待したいと思います。

(埋蔵文化財センター調査部長 川原由典)

■ 平成18年度に埋蔵文化財センターが行った発掘調査から

古館・三反田遺跡(那珂川町)

古館・三反田遺跡は、武茂川・矢又川の合流点東側段丘上、県立馬頭高校付近にあります。以前よりこの周辺からは土器や石器が採集されており、古代のムラ跡の存在が知られていました。今回、国道293号馬頭バイパス建設に伴い、遺跡の一部について発掘調査を実施しました。調査の結果、縄文時代の堅穴住居跡1軒・袋状土坑1基・陥穴状土坑1基、古墳時代後期の堅穴住居跡12軒、奈良・平安時代の堅穴住居跡8軒、中世の方形堅穴建物跡2棟・土坑約380基が発見されるなど、当地を人々が長期間にわたって利用していたことが判明しました。

特に古墳時代後期では、一辺約10mもある大形の堅穴住居跡が発見され、また内部からは極めて貴重な銅製耳環が出土するなど、当時の一般的なムラの様相とは異なる内容が確認されました。

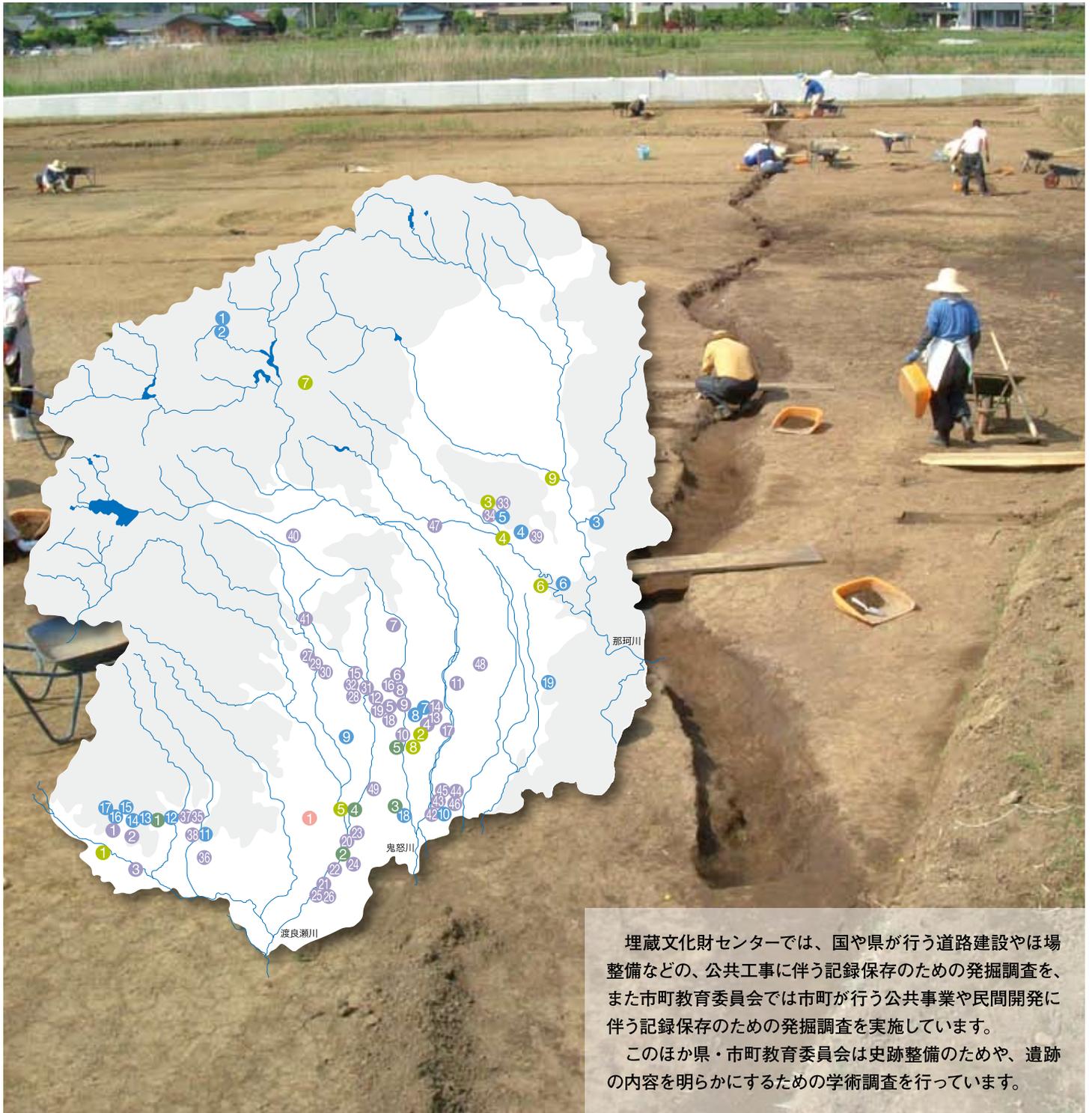
このような状況は、本遺跡に近接し、年代的にはほぼ一致する川崎古墳(6世紀後半に築造された全長約49mの前方後円墳)や、和見・北向田横穴墓群(6～7世紀に造られた国指定史跡の唐の御所横穴を含む横穴墓群)、三枚畑古墳群(現在12基の円墳群が知られる)との関係を想定できるかもしれません。

また、青磁片・香炉破片・天目茶碗片及び五輪塔などの遺物や、方形堅穴建物跡の発見、さらに当地に残る「古館」という地名から、この付近には中世に由来する「建物」があったと思われます。同じ頃に活躍し、武茂氏により築城された武茂城跡との深い関わりも考えられるでしょう。



全景(南東から)
古墳時代や奈良・平安時代の堅穴住居跡が多数発見されています。

■ 栃木県の平成18年度発掘調査一覧



埋蔵文化財センターでは、国や県が行う道路建設やほ場整備などの、公共工事に伴う記録保存のための発掘調査を、また市町教育委員会では市町が行う公共事業や民間開発に伴う記録保存のための発掘調査を実施しています。

このほか県・市町教育委員会は史跡整備のためや、遺跡の内容を明らかにするための学術調査を行っています。

■ 市町教育委員会が行った発掘調査

史跡整備のための発掘調査

No.	遺跡名	市町名	主な時代
1	樺崎寺跡	足利市	中世
2	祇園城跡	小山市	中世
3	下野薬師寺跡	下野市	古代

No.	遺跡名	市町名	主な時代
4	下野国分寺跡	下野市	古墳・古代
5	上神主・茂原官衙遺跡	上三川町	奈良・平安

内容を明らかにするための発掘調査

No.	遺跡名	市町名	主な時代
1	新宿遺跡	足利市	古墳 他
2	笹塚古墳	宇都宮市	古墳
3	富士山古墳群2号墳	さくら市	古墳
4	東山道跡	〃	奈良 他
5	丸塚古墳	下野市	古墳

No.	遺跡名	市町名	主な時代
6	清水畑遺跡	那須烏山市	奈良・平安
7	高高山黒曜石原産地遺跡群剣ヶ峯地区	矢板市	旧石器
8	上神主・茂原官衙遺跡	上三川町	奈良・平安
9	浄法寺み城遺跡	那珂川町	中世

記録保存のための発掘調査

No.	遺跡名	市町名	主な時代
1	足利氏居館跡及び鑿阿寺十二坊跡	足利市	中世
2	助戸・大月条里跡	〃	奈良 他
3	西久保遺跡	〃	奈良
4	磯岡北遺跡	宇都宮市	古墳 他
5	一向寺別院付近遺跡	〃	古墳
6	宇都宮城跡	〃	中世～近世
7	大塚古墳	〃	古墳
8	大房林遺跡	〃	古墳 他
9	城南3丁目遺跡	〃	奈良 他
10	大日塚古墳	〃	古墳
11	竹下遺跡	〃	縄文
12	辻ノ内遺跡	〃	縄文 他
13	西刑部西原遺跡	〃	古墳 他
14	東山道跡	〃	奈良 他
15	富士山台遺跡	〃	縄文・古墳
16	本村古墳群・本村遺跡	〃	古墳 他
17	瑞穂野団地遺跡	〃	古墳 他
18	宮の内遺跡	〃	奈良 他
19	若松原南遺跡	〃	古墳 他
20	烏久保遺跡	小山市	古墳
21	千駄塚浅間遺跡	〃	中世
22	外城遺跡	〃	中世
23	日光道西遺跡	〃	中世
24	神鳥谷遺跡	〃	中世
25	間々田八幡前遺跡	〃	不明

No.	遺跡名	市町名	主な時代
26	間々田牧ノ内北遺跡	小山市	不明
27	宝龍内遺跡	鹿沼市	縄文、古代、近世
28	松の木遺跡	〃	古墳・古代
29	明神前遺跡	〃	縄文～平安
30	茂呂上原遺跡	〃	縄文
31	関口遺跡	〃	縄文 他
32	茂呂向山遺跡	〃	縄文・奈良～平安
33	裏山古墳群	さくら市	古墳
34	十里橋塚群	〃	近世
35	傾城塚遺跡	佐野市	古墳 他
36	ゴロノミヤ遺跡	〃	古墳 他
37	田沼城跡	〃	中世 他
38	堀米遺跡	〃	古墳 他
39	新道平遺跡	那須烏山市	縄文・奈良・平安
40	大沢遺跡	日光市	縄文～古墳
41	四斗内遺跡	〃	縄文
42	大谷I遺跡	真岡市	奈良・平安
43	亀山西古墳	〃	不明(供養塚)
44	タタイ遺跡	〃	奈良・平安
45	東猿山遺跡	〃	縄文・奈良～近世
46	真岡城跡	〃	中世
47	中島遺跡	塩谷町	中・近世
48	東水沼大久保遺跡	芳賀町	古墳・奈良・平安
49	吾妻遺跡	壬生町	古墳

埋蔵文化財センターが行った発掘調査

No.	遺跡名	市町名	主な時代
1	川戸釜八幡遺跡	日光市	縄文・平安・近世
2	仲内遺跡	〃	縄文・平安・近世
3	古館・三反田遺跡	那珂川町	縄文～古代
4	森後遺跡	さくら市	古墳～平安
5	上金枝遺跡	〃	古墳～平安
6	岡ノ内遺跡	〃	古墳～古代
7	西刑部西原遺跡12区	宇都宮市	古墳～平安
8	砂田遺跡	〃	古墳～平安
9	谷向遺跡	壬生町	古代
10	下陰遺跡	真岡市	縄文～近世

No.	遺跡名	市町名	主な時代
11	唐沢山城跡	佐野市	中世
12	四十八塚古墳群	〃	古墳
13	中妻遺跡	足利市	古墳～平安
14	渡戸遺跡	〃	古墳～平安
15	菅田古墳群	〃	古墳
16	田島持舟遺跡	〃	縄文～近世
17	和田遺跡	〃	古墳～平安
18	町田遺跡中里地区 他4	下野市	縄文～中・近世
19	井戸尻遺跡 他6	市貝町	縄文～中・近世

その他の機関が行った内容を明らかにするための発掘調査

No.	遺跡名	市町名	主な時代	調査主体者
1	城内町古墳群	栃木市	古墳	國學院大學栃木短期大学

からさわまじょうせき

唐沢山城跡 (佐野市)

唐沢山城跡は佐野市北東にあり、唐沢山の尾根上を中心に南北2km、東西1.5kmに及ぶ大きさで築かれていた城郭跡です。今から約550年前頃(15世紀後半)佐野氏により築城され、江戸時代始め頃(17世紀初頭)佐野城(現在の佐野駅周辺)へ移るまでの間使われていたと言われています。

佐野市栃本町、唐沢山の西で秋山川と山裾に挟まれた場所は「家中屋敷」と呼ばれている屋敷の跡で、堀や土手などがたくさん残っています。この家中屋敷の南の端を区切る大きな堀が山の斜面を上に向かって縦に掘られていて、「根小屋南端の豎堀」などと呼ばれています。この堀の部分に北関東自動車道のトンネルができることになったため、発掘調査をしました。

豎堀は山の上に向い長さ約60m、堀の上幅約10~20m、下幅1~2mの大きさでした。また、豎堀を掘った時に出土はすぐ北側に積み上げて土塁(土手)を築いていました。土塁の上から堀底までは深さが6~7mもあり、屋敷を敵から守るための施設として充分役立っていたものでしょう。堀から出土した土器の破片は戦国時代後半(16世紀後半、今から約450年前)のものが多く、堀や土塁が今のような形に整えられた時期が推定できました。



唐沢山城跡全景 (南西から)



豎堀の調査状況

大きな堀が山頂部に向かって掘られています。

■ 埋蔵文化財センター普及事業の紹介

埋蔵文化財センターでは、センター内の見学や、「拓本をとろう」・「土器にさわろう」などの体験学習を受け入れています。

また、歴史の授業の教材用に、発掘された縄文時代の土器や石器、当時の復元衣装などを貸し出しています。



[平成19年4月26日]

日光市今市小学校の6年生58名が埋文センターを見学しました。パズルを組み合わせるような土器の復元作業の見学や、縄文土器に模様を付けるための「縄作り」にチャレンジしました。



埋蔵文化財センターの見学・体験学習・貸出のお申し込みは

埋蔵文化センター普及事業担当までご連絡ください。TEL 0285-44-8441